

クレッチマー画 『諸民族の服装』104枚の石版画による起源から19世紀までの変遷。K. ロールバツハによる解説付き

**Kretschmer, Albert. Die Trachten der Völker vom Beginn der Geschichte bis zum 19. Jahrhundert in 104 Tafeln zusammengestellt, gezeichnet und lithographiert.** Albert Kretschmer mit text von Karl Rohrbach. 3 ed. Leipzig, Generaldebit, (1860-1864) 1906, 352p. 104 col. plates 32.2×26.4cm 383.13-K (文献番号1-6)

Hiler p.510 Colas 1668 Lipp.76 (1882, 2 ed.)

世界の諸民族服装図鑑であるが、これには、インド人、中国人、日本人、アフリカ人、アメリカインディアンは含まれていない。彩色石版画の巧みな図版は、服装の理解を明確にさせている。典拠となった資料は、本書を完成するまでに古代・中世の膨大な資料を調査収集し、更に比較分析が重ねられた。また絵画に現われた服装についてもできるだけ現物に即して描いてある。解説はロールバツハ (?-1889) が担当しており、文化史的考察は省略されて民族服の歴史を理解する上で必要な諸事実にとどめてある。

本書は、事項索引を兼ねた内容目次と解説及び図版から成っている。解説の文化史序説では、文化史概論、服装の起源、用語の説明があり、次いで古代、中世、近世の三部に大別して記されている。古代(エジプト人、古代アジア人、ヘブライ人、ペルシャ人、東欧民族、ギリシア人、ローマ人、北欧南欧民族)、中世(ビザンティウムの住民、アングロ・サクソン人、11世紀から15世紀までのフランス、ドイツ、イタリア、イギリス、スペインなどの人々)、近世(16世紀から19世紀までの西欧各地とロシア、ポーランド、ハンガリー、トルコなどの人々、ムーア人、メキシコ人)と、時代別、国別に章を分け、それぞれの民族が着用した衣服とその付属品、武具甲冑、また身分・階級によるさまざまな服装、及び服装と関連のある装飾品や道具を示している。また典拠とした資料とその異説、実物の所在地などにも触れている。

クレッチマー(1825-1891)は、ベルリン王立宮廷劇場の画家で、その著作は後代の文献にもしばしば引用されていて、評価の高いことが知られる。本書は第3版である。



上段はシリア、下段はヘブライの人々